

# 調 査 研 究 彙 報

建 造 物 研 究 室

**神戸市文化環境保存地区内歴史的建造物の修理** 指定7地域の内本年度は垂水区伊川谷町所在の太山寺境内建物につき、その修理計画立案を指導した。当寺は国宝の本堂を中心に、三重塔・阿弥陀堂・護摩堂など多くの建物を擁し一大伽藍を形成している。56年度から市の助成金を加え経蔵を手はじめに順次修理を行う予定である。1981年3月 (細見)

**近世社寺建築特別調査** 昭和53年度に行なった山口県近世社寺緊急調査に基く精査で、特に周防地区に遺存する翼廊付楼門を対象にとりあげた。同形式はすでに今八幡宮楼門(重文・1503)にみられるが、以降近世末まで引き継がれており、18世紀中頃からは外観のみ楼造風にみせる高い一階建てのものが派生し二者が両立する。1980年7月 (細見・亀井)

**民家の軸部構造の系統的発展に関する研究** 軸部構造の類型を構造区画、上屋、下屋、三者の関連を軸として整理し、重文修理報告書のデーターにより地方的、時代的特性を把握し、さらに平面の類型を全国で約100種類に分類し、これとの関連を追求した。 (吉田)

**修二会に関する調査** 寺院建築の形態がその本来の機能である法会に強く規定されているという観点から、建築空間の形態及びその変遷を法会との関係から捉えるための調査を行った。対象は東大寺二月堂修二会と法隆寺西門堂修二会である。今後も継続的に調査する予定。(山岸)

**文化財建造物修理用資材需給実態調査** 文化庁が継続的に行なっているもので55年度の石材関係の調査をもっておわる。安山岩、砂岩、凝灰岩につき、長崎県長崎市、諫早市、小長井町、森山町、熊本県熊本市、本渡市、五和町、菊水町などの採石場、石材店、役場などで調査を行なった。これらの石材は洋風建築、橋、墓石、石畳、塀などかつては多量に使われていた。

調査結果1埋蔵量は充分にある。2他の新しい材料に押され、石材の需要が減り、採石場の放棄あるいは断続的使用のため採石場(丁場)が荒廃し、文化財用石材の採取が困難になってきている。3採石方法、石材加工ともに機械化され、石切職人、石工の技術が低下し、ノミを使える人の数が急激に減った。4石材の材質差と共に加工技術の差が、文化財としては意味があり、地方別にこれらを把握する必要がある。 (吉田)

1 2 3

模造 秋穂正八幡宮拝殿(1739)

擬模造 中領八幡宮拝殿(19世紀中頃)

## 歴 史 研 究 室

**東大寺文書調査** 文化庁の委嘱による東大寺未成巻文書の調査で、1974年度から継続、未成巻文書3部第9から第10の150号までの調書を作成した。また写真撮影については、第3部第10と薬師院文書の一部まで完了した。前年度にひきつづいて『東大寺文書目録第三巻』(第三部第一から第九まで所収)を刊行した。付論として「東大寺文書の牛王紙にみえる横折目について」(綾村宏)を収載した。

**興福寺典籍古文書調査** 従来よりの継続調査、第62函まで完了。10月

**仁和寺典籍古文書調査** 九月に旧塔中蔵階下収納の十函の調査をおわり、一応御経蔵の聖教、塔中蔵の聖教あわせて540函の調査を完了した。なお江戸時代の日記類が多数残っているので二月にその調査に着手した。日記類の量は多く時間がかかるものと思われる。なお主要文書の再調査ものこっている。

**薬師寺典籍古文書調査** 東京大学史料編さん所との共同調査として着手した第一回目のものである。函号を第1～19函まで定め、第10函まで着手し、第8函まで調書作成を完了した。また第2函8号まで、写真撮影を行った。7月

### その他の調査

**東寺観智院聖教調査** (協力) 6月、10月、高山寺 (協力) 7月、聖語蔵11月、醍醐寺8月、石山寺8月、12月、島津家文書(東大史料編さん所) 1月、大報恩院蔵・北野一切経調査、離宮八幡宮文書(協力) 10月、藤江家所蔵小杉文庫、10月、宮内省書陵部等大和荘園関係文書調査、10月 伴実氏所蔵文書調査。9月

## 平 城 宮 跡 発 掘 調 査 部

**寺本廃寺の発掘調査** 山梨県東山梨郡春日居町字寺本所在。1月9日から2月23日の間、発掘調査の指導を行なった。塔・金堂を東西に併置して南面する伽藍配置になり、白鳳時代創建・平安初期廃絶したことを確認した。塔は一辺18尺と判明、金堂は削平著しい。(甲斐・清水)

**岡山県下出土瓦の調査** 岡山市教育委員会が同市オリエント美術館に於て催した、特別展『吉備の古代瓦』に出陳された瓦類のうち、平城宮式と呼ばれる軒瓦を中心に調査した。その結果、備前・備中・美作に分布する「平城宮式」軒瓦には、平城宮跡出土品と同範例がないことを確認した。

(山本・毛利光・中村・立木)

**平城宮関連須恵器の調査** 平城宮跡発掘調査部考古第二調査室では、延喜式記載の陶器調査国の窯跡資料を調査しているが、8月に和泉国陶邑古窯跡(堺市)・播磨国西ノ池古窯跡(加古川市)、1月に播磨国札馬古窯跡(加古川市)の製品を調査した。この調査で、平城宮出土須恵器のうち、播磨国の製品が相当量存在する可能性があることを確認した。西ノ池古窯跡では、蓋の内面に当板の同心円文圧痕を残すものを発見した。これは平城宮出土品で第Ⅲ群土器に見られる特徴であるが、第Ⅲ群土器とは異なる。今後、第Ⅲ群土器の産地同定とともに、杯・皿類の特徴的な製作手法についても調査を行う予定である。

(森・田辺・安田・巽・立木)

## 埋蔵文化財センター

**勝川廃寺の発掘調査** 愛知県春日井市勝川町所在。8月1日から31日まで、発掘調査の指導を行なった。近代以降の土層攪乱が著しく、勝川廃寺に関する明瞭な遺構は検出できなかったが、軒丸瓦では藤原宮例と同範であることを確認した。詳しくは、春日井市教委『尾張勝川廃寺範囲確認調査概報』1981を参照。(山崎 信二)

**慧日寺徳一廟石層塔の調査** 昨年度写真測量を実施し解体した後の基壇を発掘調査した結果、台座石は塔身+笠石から塔身を削り取り逆に置いて使用したものと判った。この石の直下から宋銭3枚が出土。基礎は版築がなく単に赤土を敷いただけであった。その後、坪井良平、伊東信雄、藤沢一夫、伊東延男各氏による復原修理委員会によって、現状三層のものが五層に復原可能であることが確認された次年度に備えることになった。8月～9月 (安原・光谷)

**鳥取城石垣の写真測量調査** 鳥取城石垣の破損部分積直し工事に伴って、修理工事に資することと、現状記録保存の目的で、写真測量により、立面図作成、および、縦断面測定調査をおこなった。調査対象は、城郭南面の走り櫓下石垣、総長100m、高さ14m、であり、立面図の縮尺は1/20である。(伊東 太作)

**大陣原窯跡の磁気探査** 兵庫県教育委員会は竜野市揖西町土師にある、大陣原須恵器窯跡群の発掘調査に先だち、磁気探査による窯体位置確認を計画し、埋文センターがこれを全面的に援助した。探査面積約1,400 m<sup>2</sup>、窯体の存在するとみられる地点4ヶ所を確認。これは発掘調査により、4ヶ所ともに窯体の存在が確認された。11月 (西村・岩本主)

**吉和村冠遺跡の調査** 中国自動車道冠トンネル工事の排土石用地で、遺跡は10数m下に埋立てられる予定。ナイフ形石器、ポイントなどの石器群を出し、石器用材角閃石安山岩の原産地にあたり、石器製作に関する豊富な資料を認める。広島県教育委員会。6月 (松沢)

**沼津イラウネ遺跡の線刻礫の調査** 愛鷹山麓のナイフ形石器を主体とした旧石器時代遺跡。発見された多数の礫群のうちの、ほぼ方形に組んだ石組(墓か?)をなす礫の一つ。担当者関野哲夫氏とともに約1週間、実体顕微鏡下で刻線の構造、構成を観察、検討した。刻線は幅0.8—1.2mm、中に数本の細条線が連続して認められる固有な特徴をもち、描刻した方向性、重なる部分の切り合い関係が判断でき、それをもとに当初の肉眼観察による構図を修正した。また実体顕微鏡による実体視できるペア写真の撮影に成功した。今後さらに刻線構造の実験的な解析が要求される。沼津市教育委員会。線刻画部分・狩人? 約3.5倍。3月。(松沢)